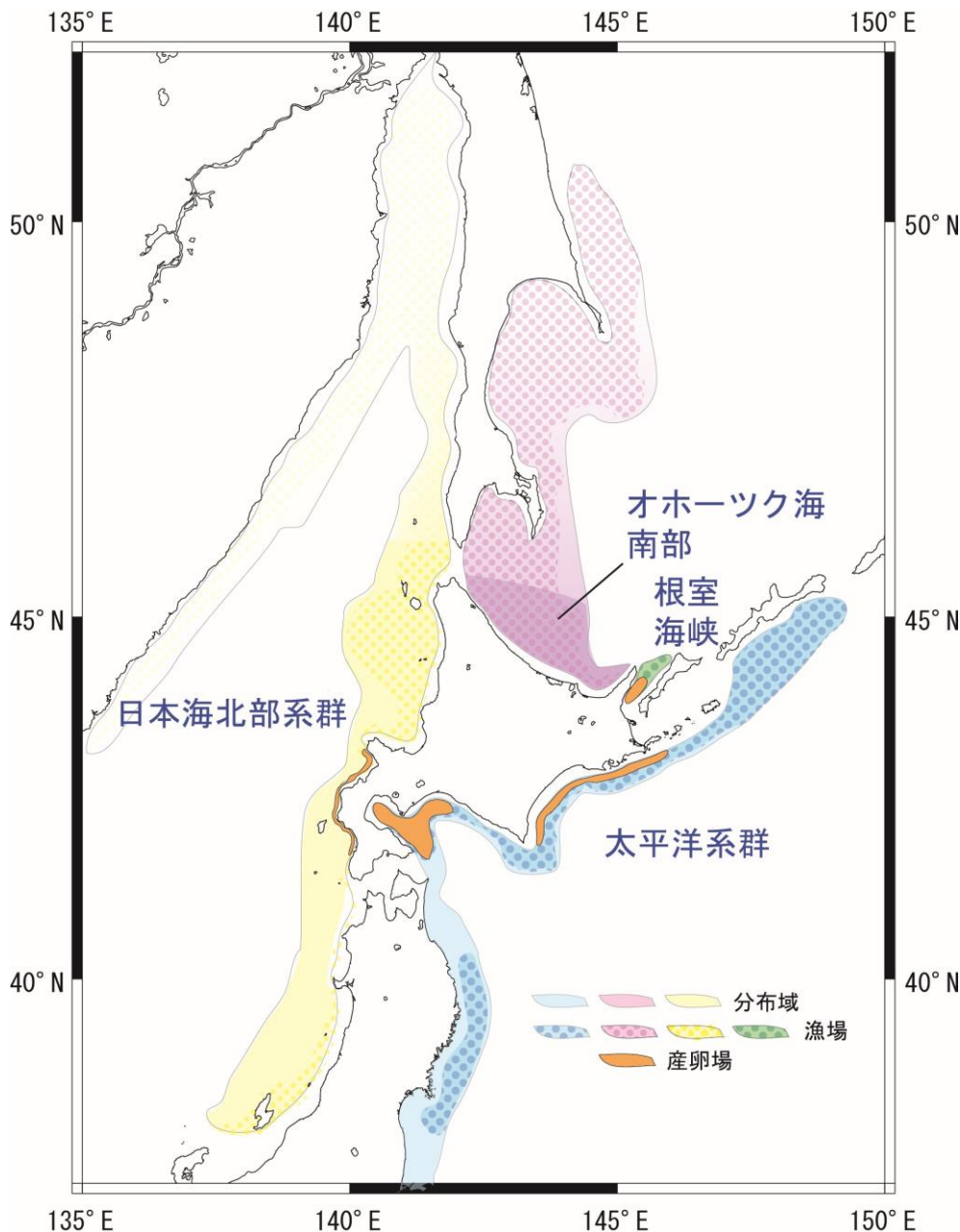




# スケトウダラ 令和元年度資源評価結果



# 生物学的特性

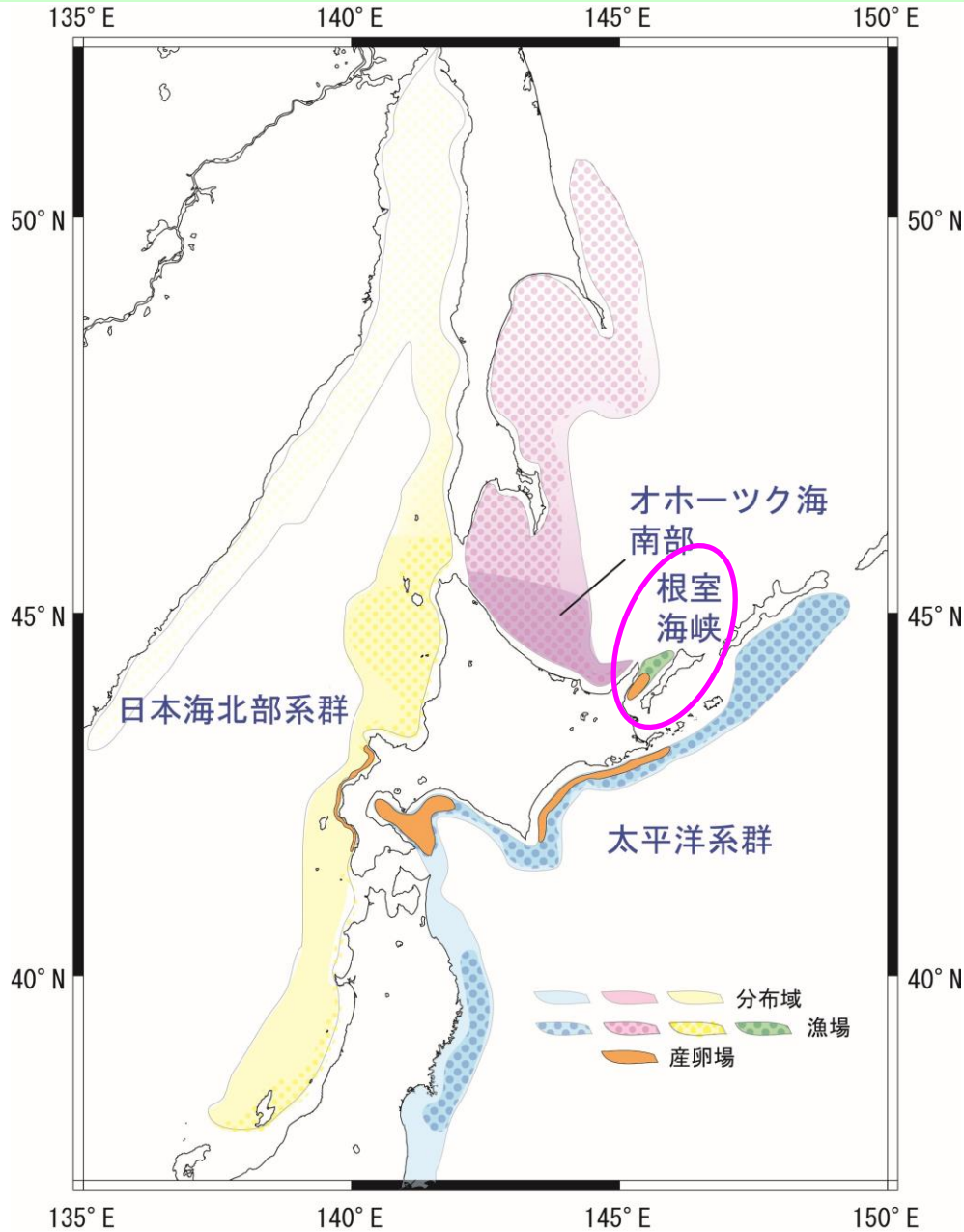


- 日本周辺では4つの集団に分けて資源評価
  - 日本海北部系群
  - 太平洋系群
  - オホーツク海南部
  - 根室海峡
- 寿命: 10歳以上
- 成熟: 概ね3歳から成熟開始  
5歳で大部分が成熟
- 産卵期: 冬～春季
- 食性: オキアミ類、カイアシ類など浮遊性小型甲殻類、魚類、いか類、ほか
- 捕食者: 海獣類、マダラなど魚類、共食い



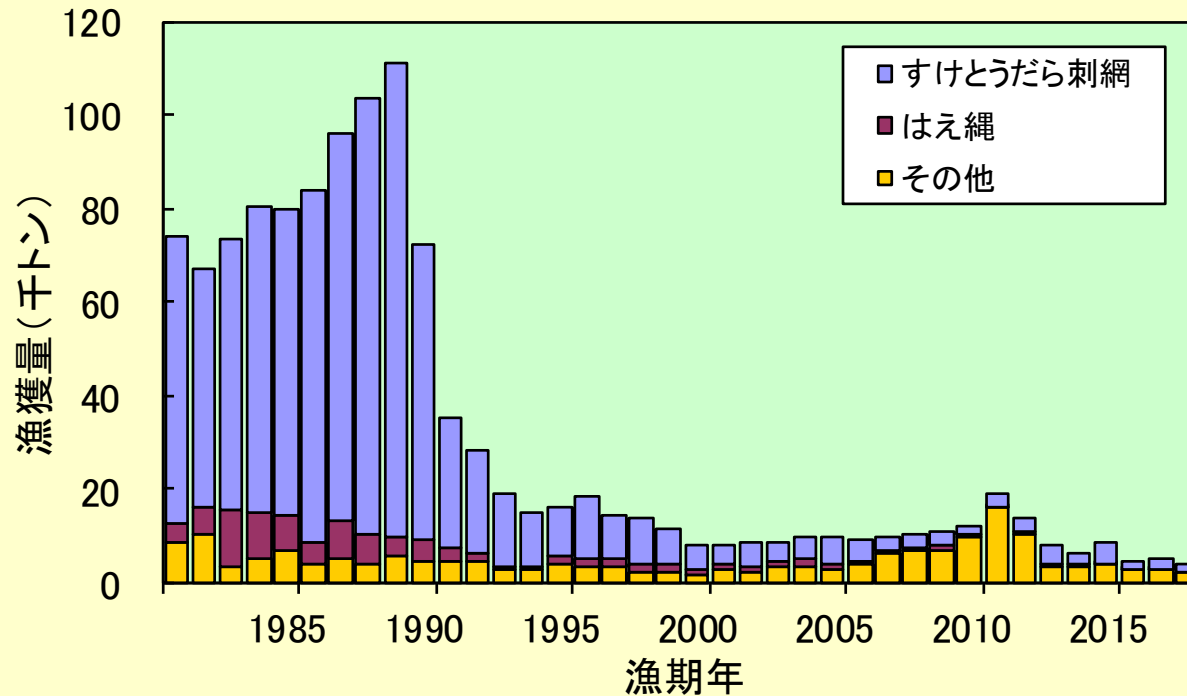
# スケトウダラ根室海峡 令和元年度資源評価結果

# 生物学的特性



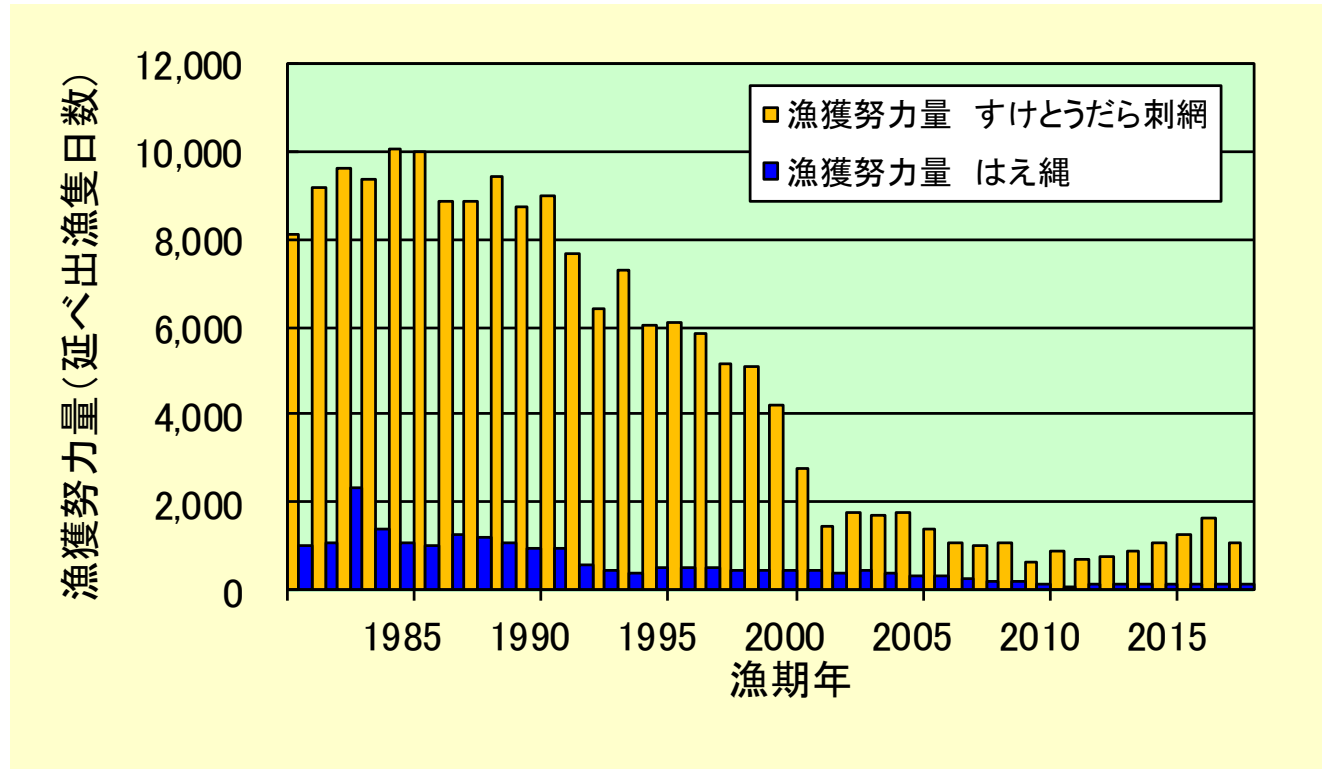
- 寿命：不明(10歳以上)
- 成熟開始年齢：  
3歳(一部)、5歳(大部分)
- 産卵期：1～4月
- 産卵のために根室海峡に冬季に来遊する群れが漁獲の主体
- 日本・ロシア両国により漁獲されている
- 若齢期や分布・回遊に関する情報は少ない

# 漁獲の動向①



- 漁期は、すけとうだら刺網(專業船)が1～3月、はえ縄が11～1月
- 漁獲量(漁期年(4～翌年3月)で集計)は、1990年代に急激に減少、その後は低水準で推移
- 2018年漁期の漁獲量は0.39万トン(前年:0.49万トン)

# 漁獲の動向②



- すけとうだら刺網では、2002年漁期から複数の経営体がグループを作り、代表の一隻が操業するブロック操業が本格的に導入されている
- すけとうだら刺網の努力量は、2002年漁期までに大きく減少してその後はほぼ横ばい

# 資源評価の流れ

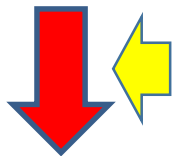
## 【漁業データの収集・処理】

- すけとうだら刺網(專業船)の努力量・漁獲量からCPUEを算出



## 【資源水準・動向の判断】

- すけとうだら刺網のCPUEにより判断



資源の状態にあわせた漁獲により資源を減少させない管理

## 【2020年漁期の算定漁獲量】





# 資源評価のまとめ

- すけとうだら刺網(専業船)のCPUEから資源状態を判断した。
- 資源水準は2018年漁期のCPUEから低位、動向は直近5年間(2014~2018年漁期)のCPUEの推移から減少と判断した。
- すけとうだら刺網のCPUEは最盛期の1割を下回る水準で低迷しているため、これ以上の資源減少を食い止めることを管理目標とする。
- 日本・ロシア両国により漁獲されているが、ロシア側の詳細な操業形態は不明で、資源評価に必要な情報は限定的であるため、ABCは算出せず、参考値として算定漁獲量を提示する。

## 2020年漁期算定漁獲量

漁獲シナリオ (管理基準)	Target/Limit	2020年漁期 算定漁獲量 (百トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値 からの増減%)	2025年漁期 の親魚量 (百トン) (80%区間)	確率評価(%)	
						2025年漁期に 2018年漁期 親魚量を維持	2025年漁期に Blimitを維持
資源の状態に 合わせた漁獲 (0.7・Cave3-yr 0.97)	Target	24	—	—	—	—	—
	Limit	30	—	—	—	—	—

「0.7」 : 資源水準が低位水準である場合の推奨値

「Cave3-yr」 : 2016～2018年の平均漁獲量

「0.97」 : 資源量指標値の推移から算出

- ABCの算定は行わず、参考値としての算定漁獲量を掲示
- 資源が低位・減少傾向にある状況を考慮し、資源をこれ以上減少させないようにすることを基本に、管理するのが妥当